



これまで、子どもの学びを学習対象の習得過程としてしかとらえなかったのではなからうか。教師は学習内容の効率的な定着を求めるあまり、子どもが仲間の中で学ぶことに不安を抱き、人間関係や自己意識の形成といった問題を軽視してこなかっただろうか。

行動科学の世界では、能力をアビリティ(Ability)とコンピテンシー(Competency Competenceともいう)に分類しているが、現在の小学校では95%の割合でアビリティが重視されているという。これが何を意味しているか、下表を見ていただきたい。確かに、アビリティは重要で

ability /?'bil?'tj/ able の名詞形	competence /k'ámp?'tns   k'óm-/
<p><b>I</b> 【U】 [+to do] &lt;...することが&gt; <b>できること[能力]</b>  <b>II</b> 1 【U】 <b>能力, 技量; 力量</b> [in, at]                      ability は生まれつきのまたは努力して得た能力一般;                      2 【U】 [しばしば複数形で] <b>才能</b></p>	<p><b>I</b> 【U】 1 能力; 適性 [for] 2 [+to do] &lt;...する&gt;能力; 適性  <b>II</b> [a ~] 資産, 十分な収入  <b>III</b> 【U】 [法] 1 権能, 権限 2 (証人などの)適格性, 能力  <b>IV</b> 【U】 [言] 言語能力.</p>
<p>○ <b>単純能力</b>                      自分一人で獲得・発揮する能力                      ex.) PC, 英会話, ピアノ, 絵                      ○ 正解のあるものに対応, どの程度あるかテストが可能,                      ○ 知識, マニュアル                      ● 小学校では95%がこっちは? 偏重していないか。否定的な言葉にアレルギーを示す。褒めると喜ぶ子が多い                      ● 会社では, 優秀, 指示した事はできる。アビリティで頑張られるのは3年間。                      新入社員 Q.当面の目標は? A.特にありません                      ● 何か新しいことに取り組むことが苦手                      ※ 引きこもり 推定 100 万人</p>	<p>○ <b>社会適応能力</b>                      他者との関係の中で発揮できる能力                      ex.) 対人関係, コミュニケーション, チームワーク, リーダーシップ                      ○ 唯一絶対と言える正解のないものに対応, もっているかもっていないかテストは困難,                      ○ 知恵, 応用力, 機転, 臨機応変                      ● ややおろそかになっていないか。                      ● 実際の場で生かす。                      ● 対人関係, クラブ, 体育会系                      ※ アドリブのきく人間 (さんま, タモリ)</p>

あるが、新たな問題を解決する万能アイテムにはなりにくい。一方、コンピテンシーは、他者との関係の中で発揮する能力であり、知恵や機転・応用力ととらえられている。今、先進的な経営マネジメントや人事や人材育成の分野では、いい成果や高い業績をあげる人のもつ行動や思考の特性という意味で使われている(※)そうである。

なぜ、他者との関係の中で発揮するコンピテンシーが重要なのか。それは、実際の場で必要となる生きる力と直結しているからである。そういえば、かなりの学校研究に「学び合い」「高め合い」「ひびき合い」という仲間を意識した主題を見る。学校教育の中で意図的・計画的にコンピテンシーを育てることにシフトしていこう。

(芝)

【参考・引用】

表は、筆者が講義から作ったもの

平成 15 年度教職員等中央研修講座組織マネジメント研修(4)より 2004/01/16

学校法人産業能率大学経営開発本部教育・コンサルティング主任研究員 佐藤俊哉先生

※ 「鈴木敏恵の未来教育インフォメーション」第 367 号